

# 倉吉スイカの産地発展に向けて ～販売額10億円達成、さらに高みへ～ 倉吉農業改良普及所

## 〈活動事例の要旨〉

倉吉西瓜生産部は生産者の高齢化により、一時は面積、販売額ともピーク時の半分程度まで減少し、栽培面積の維持・増加と今後の産地振興プランの作成が求められた。普及所では簡易な栽培マニュアルの作成や新規栽培者向け指導会の開催を皮切りに支援を行い、平成30年3月には、産地振興プランとなる「倉吉スイカ16億円達成プロジェクト」の立ち上げを行った。

## 1 普及活動の課題・目標

### (1) 背景と課題

倉吉西瓜生産部は倉吉市内の4地区を中心に栽培され、ピーク時には栽培面積182ha（平成9年）、販売額約16億円（平成7年）を誇るスイカの一大産地であった。しかし生産者の高齢化が進み、平成26年には面積85ha、販売額8億円とピーク時に比べて半減してしまい、現在、栽培面積の維持・増加が産地の重要な課題となっている。一方、生産部では近年、毎年数名の新規部会員を迎え入れており、生産技術向上への支援が必要である。

### (2) 目標

#### ア 新規栽培者の生産技術向上支援

スイカの栽培管理作業は複雑かつ多岐にわたっており、技術習得・向上が新規栽培者にとっての大きな課題である。そこで新規栽培者向けのわかりやすい栽培マニュアルの作成を行い、生産技術向上を支援する。

#### イ 産地振興プランの作成

産地維持のため、生産者の個別経営規模拡大や新規栽培者を増やすなど、生産部が主体となって取り組むことのできる産地振興プランの作成を行う。

## 2 普及活動の内容

### (1) 新規栽培者の生産技術向上支援

#### ア 簡易な栽培マニュアルの作成

平成28年に栽培開始1～2年の生産者から「シーズン中は作業に追われ、栽培全体の流れがなかなか把握できない」との声があったことから、新規栽培者に対する技術支援の必要性について指導部長に働きかけた。その結果、指導部長、JA指導員と協力してスイカ栽培の一連の作業を模式図化し、作業ポイントを添えたA4用紙両面1枚に収まる簡易な栽培マニュアルを作成した。

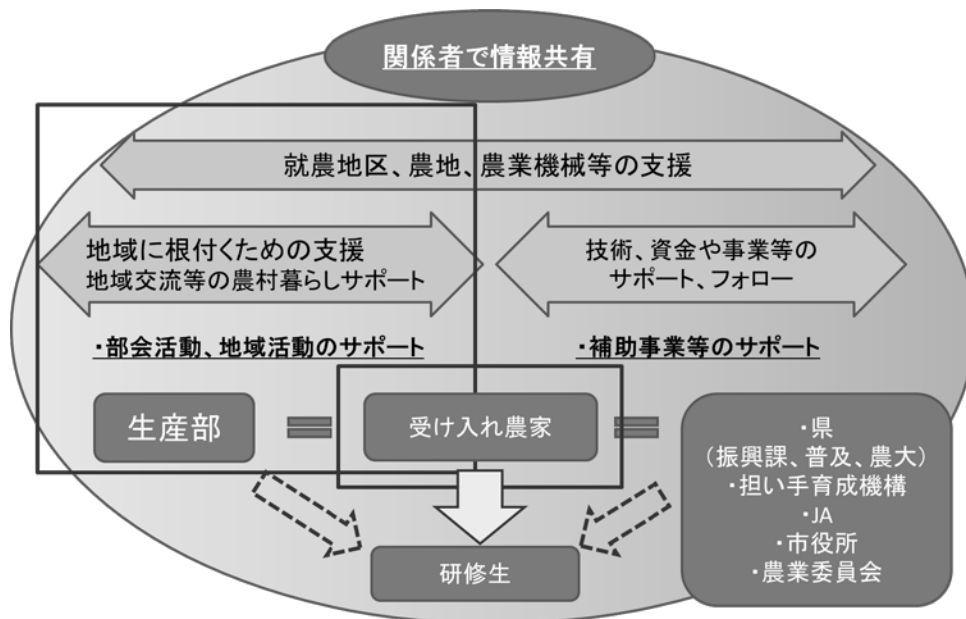
## イ 新規栽培者向け指導会の開催

栽培マニュアルの完成を受け、平成29年より新規栽培者向け指導会を開催した。対象は新たに生産部に加入して3年以内の部会員とし、栽培初期および収穫期に指導会を実施した。栽培が終了した9月には反省会を実施し、その年の作柄の振り返りと翌年作の計画作成について支援した。

## (2) 産地振興プランの作成

### ア 先進農家実践研修の産地受入れ

平成29年9月にある部会員から「スイカ農家になりたいという若者がいる。何か良い研修制度がないだろうか。」という相談を受けた。農業振興課と農業大学校に相談する中で、先進農家実践研修の案が浮かび、実際に進めることとなった。農業振興課が研修に対する生産部の関わりについて案を作成し、役員会で提案したところ了承され、生産部長から「これからは産地として積極的に新規就農者を受け入れていこう」との発言があった。



## イ 倉吉スイカ16億円達成プロジェクト

### (ア) プロジェクト発足のきっかけ

平成29年11月に行われた倉吉西瓜販売額10億円達成記念大会で、生産部長から「次は16億円を目指す」と宣言された。これを受けて中部総合事務所農林局として16億円達成を応援するべくプロジェクトを立ち上げることとなった。

### (イ) プロジェクト概要

プロジェクトでは産地提案型の新規就農者確保とその育成を目指し、生産部が主体となって新規就農者募集活動を行うことと、新規就農者が良い条件で耕作できるように中間管理事業を活用した圃場整備（スイカ団地の造成）を行うことの2本柱とした。

### (ウ) 普及所の関わり

プロジェクトを立ち上げるにあたり、農業振興課、地域整備課と連携してプロジェクト進行案を作成した。圃場整備の工事完了までの5年間のロードマップを作成し、そこに新規就農者確保のスケジュールを組み込んだ。作成後は実施主体となる生産部との事前調整を行い、平成30年3月に関係機関を集めてのキックオフミーティングを開催した。

## 3 具体的な成果

### (1) 新規栽培者の生産技術向上支援

#### ア 簡易な栽培マニュアルの作成

普及所が作成した新規栽培者向け栽培マニュアルは新規栽培者から「全体の流れがイメージできるので、どうしたら次の作業が楽になるかを考えながら作業できる」と好評だった。さらに当該栽培マニュアルをJA鳥取中央全体の指導部会で紹介したところ、新規栽培者に配慮した資料が必要であるとの認識で一致し、15年ぶりとなる栽培暦の改定に繋がった。

#### イ 新規栽培者向け指導会の開催

指導会は指導員圃場で実際の作業を見せてもらいながら、指導員からポイントを簡潔に紹介していく形式で実施した。参加者からは「通常の指導会ではベテランが多く質問しづらかったが、今回は色々ときくことができ良かった」、「他の地区の畑を見ることは少なく勉強になった」等の声が聞かれた。

## ウ 販売額 10 億円の達成

新規栽培者に向けた技術支援の取り組みが生産部の面積増加を後押しし、平成 27 年から 3 年連続で栽培面積が増加、平成 29 年には 93.8 ha に拡大した。また品質も向上（秀率：平成 27 年 50%→平成 29 年 65%）し、生産部が 28 年から実施している販売キャンペーンの効果もあり単価が高まった。その結果、平成 29 年には抑制スイカと合わせた生産部の販売額が 16 年ぶりに 10 億円を達成した。

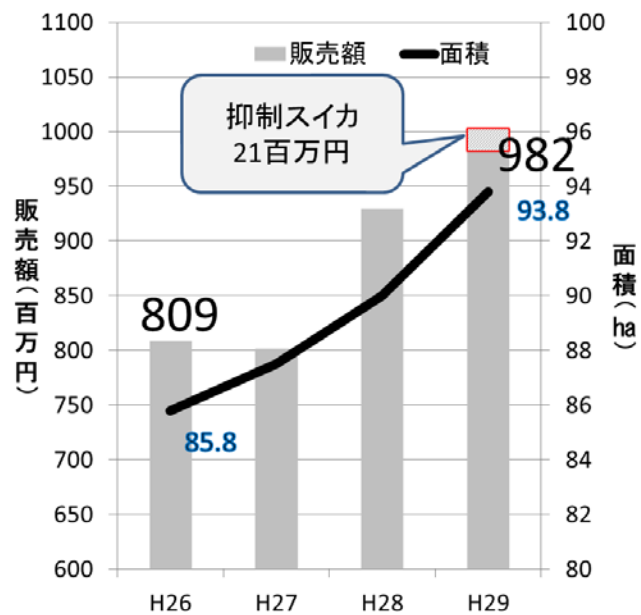


図 2 倉吉西瓜生産部の販売額、面積

## (2) 産地振興プランの作成

### ア 先進農家実践研修の産地受入れ

研修生 1 名が先進農家実践研修を本年 2 月から受けており、生産部の中堅農家 1 名が親方となって研修している。研修生には作業をしながらの指導だけでなく、新規栽培者向け指導会など、生産部の行事にも参加してもらい地域とのつながりを作っている。また地域の役員による研修状況確認会を実施することで、研修生を生産部全体で受け入れていく意識が醸成されてきた。

### イ 倉吉スイカ 16 億円達成プロジェクト

プロジェクトを立ち上げ方向となった際は、生産部長以外の役員にとって「16 億円」は高すぎるハードルに思われた。しかしその後一人ひとりに普及員が説明して回り、理解を進めることで、平成 30 年 3 月のキックオフミーティング開催の際には「倉吉西瓜生産部が向かうべき目標」という意識を生産部の役員らが持つことができるようになった。

## 4 今後の普及活動に向けて

### (1) 新規栽培者の生産技術向上支援

新規栽培者向け指導会は平成30年で2年目になり、生産部全体にも周知されてきた。同年からは参集範囲に親元就農者も加え、同年代との交流促進を進めている。また平成29年度改定した栽培暦は40ページにわたっており、新規栽培者が独自にすべてを読み解くことは難しいと考えられる。そのため平成30年の栽培反省会に合わせて、勉強会を開催して栽培に関する知識の定着を図る。さらにこの機会に若手指導員が積極的に関わるように普及員が促し、今後産地を引っ張っていく意識の醸成を図りたい。

### (2) 産地振興プランの作成

今後、産地提案型の新規就農者確保のために、就農相談会等で提示する「倉吉スイカ就農モデル」を作成し、それを掲載したチラシを作成する必要がある。このチラシをもって生産者が就農相談会へ参加し、具体的なイメージを持って新規就農希望者を募っていく方向となる。就農モデルおよびチラシの作成については農業振興課、市およびJAが連携して行い、普及所は主に生産者が就農相談会へ出席する体制整備を支援する。

また、研修受入農家の資質向上も必要であるため、平成30年の秋以降に受入れ候補農家を対象に研修会を普及所が主体となって実施する予定である。ここでは新規就農者を育成するための心構え、研修生の雇用のための経営管理、他産地（先進地）の生産者との交流を検討している。

(執筆者：澤口 敬太)